



国民の皆様、全柔道愛好家、全柔道関係者  
報道関係各位

2013年7月3日  
公益財団法人全日本柔道連盟  
会長 上村春樹

国民の皆様、報道関係者、全柔道愛好家、全柔道関係者の皆様、

私は、全日本柔道連盟及び理事を代表し、昨年来一連の諸問題を引き起こし、多大なるご心配をおかけしたことに對し、全国民の皆様並びに全柔道愛好家及び全柔道関係者に心よりお詫び申し上げます。特に、柔道愛好家及び柔道関係者の皆様には、当連盟の不手際や稚拙な対応によって、強い憤りと不信の念を与え、更には肩身の狭い思いをさせたことに對し、大変申し訳なく思っております。

私達一同、深い反省の上に立ち、新たな時代を築くべく全力を尽くすことをお約束致します。

全日本柔道連盟は、去る6月25日開催の評議員会で承認された新理事を加えた新たな体制となりました。これを機に、先に発表した「改革・改善実行プロジェクト」(添付)の進め方を見直し、改革を速やかに進めるため、まず以下の項目に関して具体的な方策をとることにいたします。

これは、スピードのある改革を断行し、社会の信頼を回復するための手始めの措置です。

私達は、旧習を墨守することなく理非曲直を明らかにし、柔道をめぐる数多くのステークホルダーと社会に対する責任を、透明性・公正性の上に再構築すべく努力してまいります。

そして、社会的責任と国民への責任を十分に果たすに足る全柔連の再構築を目指して、改革を進める所存です。

#### **既に実行した項目**

■ 「暴力の根絶プロジェクト」の設置及び各種活動開始

■ 組織改革分科会「女性枠設定による理事への女性登用」と外部理事の登用

去る6月24日の理事会承認に基き25日の評議員会にて承認され、多くの女性理事の登用を実現しました。

理事5人 : 外部2人＝藤原庸介氏 (JOC 理事)

橋本聖子氏 (参議院議員、日本スケート連盟会長)

内部3人＝谷 亮子氏 (参議院議員)

田辺陽子氏 (日本大学準教授)

北田典子氏 (日本柔道育英学会講道学舎代表)

■ 常務理事会の新設と同理事会への外部理事及び女性理事登用の決定

藤原庸介理事、田辺陽子理事、北田典子理事

**「全柔連改革促進タスクフォース」結成について**

改革に向けた各プロジェクトの迅速な実行を促進する為にタスクフォースを結成します。

■ 目的：

1. 2か月以内に（9月7日のIOC総会開催以前に）改革の目途をつけるため、改革のそれぞれの項目に具体的なデッドラインを設定すること
2. 各プロジェクトに直接助言し、期限内に結果を出すよう導くこと
3. 各分科会及びプロジェクト相互間の調整を行い、総合的に促進すること
4. 必要と認められる新たなプロジェクトについて設置を進言すること

■ メンバー：

齊藤 仁 理事  
宇野博昌 理事  
田辺陽子 理事  
北田典子 理事  
藤原庸介 外部理事  
山見博康 日本バスケットボール協会裁定委員長

■ 活動の進捗状況：今後、原則として週に1回、各プロジェクトの進捗状況についてお知らせします。

**タスクフォースによる改革の提案【第1回】**

取り急ぎ次の3点を実行に移すことを提案します。

**(1) 選手委員会（アスリート委員会）の設立**

全柔連の専門委員会に新たにアスリート委員会を加えるための規程作りを始めます。今年3月19日付でJOCから提示された13項目の改善項目の中で、「全柔連上層部が選手の生の声を汲み上げ、組織の意思決定に反映できる仕組みを構築すること」との指摘があり、アスリート委員会の設立はこの提言に具体的な形で応えるものです。

このプロジェクトは、全柔連改革・改善実行プロジェクトのうち、組織改革分科会（責任者：小俣幸嗣総務委員長）の担当であり、7月末までにアスリート委員会規程（案）を作成するよう作業を進めます。全柔連のアスリート委員会は、理事会や執行部が委員を選任するのではなく、A強化、B強化選手、及び過去何年かの間にA強化、B強化であった元選手、更に形や視覚障害の選手・元選手から、委員候補者を出し、フェアな形で男女同数の委員が選出できるような規程（案）を作るべく努力します。

## (2) 連盟事務局運営の適正化と透明化

本年6月21日付の「振興センター助成金問題に関する第三者委員会」の最終報告書では、事務局のあり方に関して、「事務局は、事務手続に精通し、時に上司の過ちを是正することが求められるし、(中略) 乱れた組織的秩序を把握し、是正する責任があった。」と指摘されています。

このため、全柔連事務局の運営に関して、①事務局運営に必要な規程・規則が適切に作られているか、②それらの規程・規則が適切に実行されているか、の二つを調査し、事務局運営の適正な強化を図ります。このプロジェクトは、全柔連改革・改善実行プロジェクトのうち、組織改革分科会(責任者:小俣幸嗣総務委員長)の担当であり、8月末までに事務局に関する規程・規則を見直し、運営の適切化と透明化を完了させます。

## (3) 選手選考をめぐる明文化した基準の作成(添付資料ご参照)

強化システム分科会「全日本チームへの選手選抜、代表選手選抜の際の説明責任」に関して、大幅に前倒ししてその実現を図る。

初心者から日本代表に至るまでどの段階の選手にとっても、自らが或る大会に選手として選抜されるかどうかは最大の関心事であり、また厳しい練習に耐えて向上をはかる原動力となります。記録競技ではない柔道の選手選考にはさまざまな要素が関係し、一律な基準作りは大変難しいものではありませんが、まずこの難しい選考過程の透明化・明確化を図ることが、柔道に対する信頼回復の第一歩となるものと考えます。

このテーマは、全柔連改革・改善実行プロジェクトのうち、強化システム分科会(責任者: 斉藤仁強化委員長)の担当であり、本年4月に作成発表された基準をベースに、国際基準に適合するような新たな視点から、選手にも判り易い文章に作成し直して、8月末までに明文化できるよう作業を進めていく方針であります。

-----

このタスクフォースが最も重きを置くのは「スピード」です。上記の3点は、直ちに実行を開始する項目ではありますが、これを端緒にしてこれから「改革促進タスクフォース」の主導の下で、その助言・協力を得て各分科会で改革を実現していく所存です。それによって、連盟のガバナンスと透明性を高めて信頼を取り戻し、柔道が再び国民から愛され、喜ばれるよう努力します。

(以 上)

### **添付資料**

1. 「2013年6月24日付け 改革・改善実行プロジェクト」
2. 「2013年6月11日付け 暴力の根絶プロジェクトロードマップ」
3. 「英国柔道協会 国際大会レベルの主な競技会への選考規程」